

| | | |
|---------|--|--|
| 支援センター名 | 横越町子ども活動支援ボランティアセンター | |
| 所在地 | 〒950-0208 新潟県中蒲原郡横越町中央1-1-3 | |
| 連絡先 | Tel 025-385-5045 Fax 025-385-5045 | |

事業の概要とポイント

- ①小学校から、国語の授業で子どもたちに「戦争時の体験」をわかりやすくお話しできる方はいないかという相談を受けた。コーディネーターは子ども活動支援ボランティアに登録されている人材や戦没者遺族会への問い合わせ等をしながら人選を行なった。教師の意図になかった心に響くお話ができる人を紹介でき、成果を上げることができた。
- ②横越町子どもセンター推進事業である子どもわくわく交流体験事業「横越達人に挑戦」を企画中の中央子どもセンターから、横越町内でそば打ち体験、竹細工・わら細工自然工作・草木染めを指導できる人材の要請を受け、ボランティア登録者及び諸団体・サークル等の人的ネットワークを活用してリストアップしたものを紹介し、成果を上げることができた。

関係した学校・団体の名称

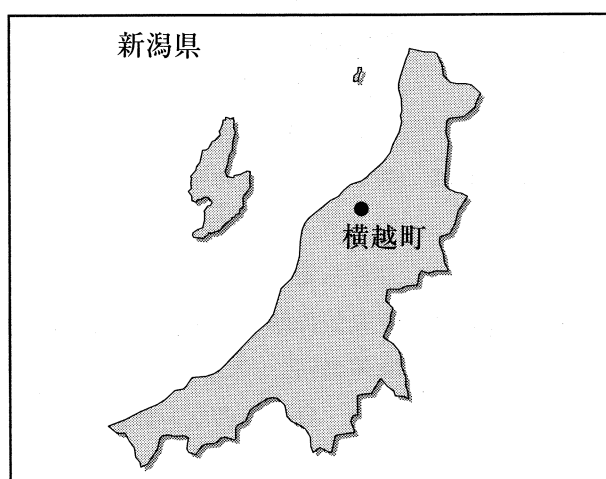
- ①横越小学校、戦没遺族会
- ②横越町中央子どもセンター、観音そばの会、草木染めファンシーフリル、農業体験アドバイザー、老人会（竹細工愛好者）、横越小学校、地域子どもセンター

地域の現況・特色

活動対象地域の横越町の人口は11,354人である。

横越町は新潟県北部の南東にあり、県下最大の穀倉地帯・蒲原平野の中央に位置している。面積は23.62km²。

近年、高速交通体系の整備を足がかりに工業団地の造成や宅地開発が進み、地場産業である農業と商工業の構造転換・近代化が促進され、バランスのとれた産業発展が図られている。



平成8年11月には町制が施行され、人と自然の調和を大切にしたい住みよい活気に満ちたまちづくりを目指している。現在、市町村合併に向けての協議が行われている。

企画から活動までの経緯

- ① 9月27日 横越小学校3年生担任から、国語の授業に「戦争当時の横越の生活」についての話のできる方がいないかという依頼を受け、同日、子ども活動を支援するボランティアリストから人選した後、各々に電話で打診した。その結果、適任者を3名に絞り、詳しく依頼の内容を説明した。
- 9月30日 生涯学習担当の中央公民館職員に直接相談し、検討した結果、戦没者遺族会代表であり、なお、人前でのお話を得意とされる方を見つけ、電話で依頼内容を説明し、お願いした。
- 10月1日 人選の結果を学校に連絡し、その後、コーディネーターが担任を訪問し、直接会って細かな打ち合わせを行なった。
- 10月2日 打ち合わせ内容をボランティアに電話連絡をし、詳細について学校から連絡があることを伝えた。
- 10月18日 学校とボランティアが直接、交渉・調整をし合って決定となった。
- ② 8月28日 中央子どもセンター事業部からの要請を受け、事業担当者とコーディネーターによる合同会議が開催され、横越町にはどんなものづくりの名人・達人がいるのかという検討がなされた。
- 9月5日 コーディネーターは、事業のメインとなるそば打ちの達人探しを開始した。当初は、全く見当がつかなかったが、町内にある「観音そばの会」に相談し、適任者を紹介された。すぐに連絡を取り、打ち合わせを行なった。
- 9月11日 そば打ち体験（参加者全員）以外に、セレクト体験ができる竹細工、わら細工、自然工作、草木染めについても、ボランティア登録リストから人選し、その登録者をとおして、多くの新たな人材を発掘した。また、コーディネーターが事業部へのセレクト体験内容の提案をしながら、より連携を深めた。
- 9月24日 そば打ち体験を40名で行なうこととなり、それに伴う道具の手配が困難になったが、近隣市町村からの物品借用が可能となり、また、当日のサポートも「観音そばの会」の方々の協力でバックアップ体制が敷かれることとなった。
- 9月30日 ボランティアコーディネーターと事業企画コーディネーターの連携で、募集要項、ポスター等を作成して学校に配布し、参加者を募ると共に、開催当日の協力者も募集した。
- 10月20日 中央公民館を会場に「横越達人に挑戦」が開催され、子ども36名、大人9名、指導者9名、ボランティア6名、コーディネーター・スタッフ5名、計55名が集まり、日頃できない体験に参加者は満足していた。

事例の展開内容（特色など）

- ①最初の依頼時には、具体的な授業内容まで把握せず対応したが、再度、依頼者との打ち合わせで、小学校3年の国語の授業で扱っている「ちいちゃんのかげおくり」という題材があり、今の子どもは、戦争当時の生活の様子をイメージしにくく、家族から聞ける機会も少ないため、実感が湧かないという教師の課題を理解したことで、諸団体や専門分野への人材の発掘の機会となった。これを機に総合的な学習の時間の課題「阿賀野川に関する学習」「ボランティア福祉体験」「横越の名所・偉人・文化財調べ」等の調べ学習や体験学習の活動を、学校と地域が連携して支援することができた。
- ②中央子どもセンターの「横越達人に挑戦」事業と並行して、小学校の総合的な学習の時間では、高齢者との交流をとおした昔遊び体験の依頼があり、「横越達人に挑戦」で紹介した竹細工指導者やお手玉づくりの活動を紹介できた。さらに、各地区地域子どもセンターの活動にも働きかけ、お正月の門松づくりを紹介したり、観音そばの会に声をかけ、地元で収穫したそばの実からそば粉を作り、実際にお年寄りからそば打ちの手ほどきを受けながら、地域に根差した体験活動への提案を行なった。

企画・活動する上でのポイント、留意点など

- ・横越町は、農村部がかなり残っており、お年寄りと一緒に生活している世帯も多く、協力していただける土壌はある。コーディネートしていく上で、学校が授業をどのように進めているのか、またこの授業は何のために学校外の指導者やボランティアを活用し、体験活動を通じて、どのような学習の成果を得ることをねらいとしているのかを対応時に明確にしておく必要があった。単なる人材リストからの紹介では、効果的なマッチングまでには至らないことがわかった。
今後は、活動の様子や感想なども両者に伝え、次回の学ぶ側の意欲、指導する側の資質の向上につながるような手だてをするとともに、常に新たな人材の発掘に心がけることが必要である。
- ・依頼を待つだけのコーディネートではなく、紹介したボランティアが他の場所でも活躍できるよう工夫したり、継続的、発展的に子どもたちが体験できるようなボランティアの活用を学校・地域で連携したことで、より効果のある活動が生まれたと思う。今年度は、事前に学校や地域が求める人材をそれぞれの担当者レベルで検討していたおかげで働きかけるコーディネートができたと考える。苦労した点は、ボランティアを探す上で様々な分野にわたっていたため、多くの調整や連絡が必要であった。一部打ち合わせ不足のところでは、当日の動きや内容を周知しきれなかった。

評 価

・当ボランティアセンターでは、人材リストを小中学校に配布し、学校職員子どもセンター担当と連絡を取りながら、地域の学習や福祉体験、高齢者との交流体験の場の提供をコーディネートした。また、実際の授業や校外での調査活動においてはコーディネーターを介して、子どもたちとのかかわり方、学校の方針や希望などを話し合い、ボランティア活動・体験活動がより効果的に行なわれるように配慮した。

その結果、学校職員との意思の疎通も次第に図られるようになり、両者の思いや願いを理解し合いながら活動を進める基盤が少しずつできてきた。特に学校教育活動・地域活動等に対し、「待つボランティア活動・体験活動」から「働きかけるボランティア活動・体験活動」への意識が育ったことは大きな成果と考える。

・中央子どもセンターには、子ども情報センター・ボランティアセンターが併設されているほか、地域公民館を単位とした地域子どもセンター（9か所）と小中学校とのネットワークを総括したコーディネート業務が行われており、情報提供・発信、交流体験、人材発掘・養成、グループ・サークル・関係団体との連携の間に「人と情報」の流れができたことで、子どもたちの様々な活動を支援していく輪が一層広がった。ボランティア研修事業では、町民に広く呼びかけ、趣旨・内容・活用方法等の説明会を開き、個々に面談を行いながら人材発掘を試みた。また、登録ボランティアをはじめ、各種関係団体、一般参加者によるサポーター研修会を行い、講義、グループ研修（ワークショップ）、レクリエーション実技指導をとおして、実際に地域で活用できる内容を研修し、地域コーディネーターの資質の向上を図った。

今後は、他市町村と連携した広域のボランティア人材の発掘や、学校・地域・子どもセンター等の活動で、企画段階から子どもたちが参画できる年間の協働奉仕活動・体験活動の計画やジュニアリーダーの育成に重点をおき、進めていきたい。

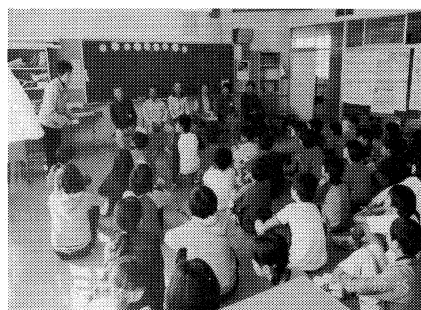
【活動風景】



横越達人に挑戦（そば打ち）



横越達人に挑戦（そば打ち）



小学校総合学習